

平成28年度第1回広島市廃棄物処理事業審議会 議事要旨

1 日時

平成28年11月25日（金） 午後3時30分～午後5時10分

2 場所

広島市役所本庁舎14階第7会議室

3 出席委員

今岡 務（会長）、川本 季子（副会長）、伊藤 圭子、亀本 隆資、下村 純一、滝島 繁樹、天玉朝子、仁井 孝尚、牧里 重喜（以上9名）

4 次第

(1) 開会

(2) 議事

報告1 平成27年度ごみ排出量等の実績について

報告2 広島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の行動計画に基づく施策の実施状況等について

(3) 閉会

5 公開・非公開の別

公開

6 傍聴人の人数

1名

7 会議資料

○ 平成27年度ごみ排出量等の実績について（報告1）

○ 広島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の行動計画に基づく施策の実施状況等（平成27年度～平成28年度上半期）（報告2）

（食品ロス削減関係資料）

- ・ 食品ロス削減事業の取組状況について（新聞報道）
- ・ 食品ロス削減キャンペーン「スマイル！ひろしま」の展開について

（参考資料）

- ・ 食品ロスの削減啓発用リーフレット
- ・ 使用済小型家電の回収についてのチラシ
- ・ 家庭ごみ収集日程等お知らせアプリの広報開始についての報道資料
- ・ 家庭系紙ごみの出し方マニュアル

8 議事要旨

発言者	発言要旨
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> 本日の議事は報告が2件である。事務局から説明をお願いする。
環境政策課長	<p>【平成27年度ごみ排出量等の実績について、広島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の行動計画に基づく施策の実施状況等について説明】</p>
業務第一課指導担当課長	<p>【食品ロス削減関係資料について説明】</p>
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> ただ今の説明について、御意見、御質問等があれば承りたい。
川本副会長	<ul style="list-style-type: none"> 報告1の3ページで、事業系の可燃ごみが増えているということだが、約19%が資源化できる紙類であり、資源としてもったいないので活用していただければと思う。 ごみを燃やすということでCO₂が発生し、環境問題にもつながるので、可燃ごみの削減にもう一步踏み込んだ対策を行っていただきたい。事業者に徹底指導していただいて、少しでも排出量が減るような努力をお願いしたい。
業務第一課指導担当課長	<ul style="list-style-type: none"> 現在、店舗面積が500平方メートル超の事業所等に対しては、大規模事業所訪問を行い、指導している。オフィスについては、紙ごみを出来るだけリサイクルしていただき、スーパーマーケット等の食品関係の店舗については、食品ロス削減のため、廃棄する食品を食品リサイクル施設に回していただくといったような啓発を行っているが、今後はこの取組を更に強化していきたいと考えている。 また、飲食店については、事業者の組合等と一緒に食べきり協力店の制度を設けながら、食品ロスの削減に努めていきたいと考えている。
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> 事業ごみが増えてきた理由はどう考えられているのか。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> 一般的に、事業ごみの排出量は景気の変化に伴って増減するといわれているので、事業ごみが平成22年度以降増加してきたのは、景気が回復して、事業活動が活発になったことも一因ではないかと考えている。
下村委員	<ul style="list-style-type: none"> 事業ごみの増加の理由の一つとして、大型店の増加があると思うので、そこに対する指導を徹底していただければ、ある程度排出量を抑えられる部分が出るのではないかと思います。 広島駅前や石内地区等の開発に伴って、来年や再来年にも事業ごみの増加が必ずあると思うので、その辺りを視野に入れつつ指導を徹底していただきたい。 「家庭系紙ごみの出し方マニュアル」のチラシ等、非常に良いものを作成しているのだが、PR不足があると思う。市はいつも、市のホームページや広報紙に掲載しているとおっしゃるが、それを一生懸命見ている人はほとんどいないのではないかと思います。また、(市の広報紙が折り込まれている)新聞を取っていない若い人というのが多くいるので、その辺りの人を含めると、使用済小型家電の回収、紙ごみの出し方等の啓発内容についても、どれくらいの人知っているのかということもあるので、テレビ等を上手く利用した広報を積極的にされた方がいいと思う。

	<ul style="list-style-type: none"> 家庭ごみ、紙ごみの出し方のチラシ、使用済小型家電の回収、スマートフォンの利用等、非常に良い内容だと思う。今はスマートフォンが普及しているので、それを上手く利用して、ゲーム性を加えたアプリを作れば若い人にも浸透しやすいのではないかな。
業務部長	<ul style="list-style-type: none"> 下村委員がおっしゃったように、事業ごみの増加の理由としては、大型店の増加も考えられるし、業種によっては、販売の形態が変わってきていることもあると思う。 従来であれば、薬局が町中に数店あるという状態だったのが、今はドラッグストアという形態でいくつもの店舗がある。ドラッグストアでは、紙箱から出してばら売りを行うので、当然、紙箱が排出される。本市としては、紙ごみの資源化の推進のため、薬局を全店回って、全て資源化するよう指導している。 また、学習塾がプリント等を作成し、紙ごみとして排出するので、そういった業種についても個別に指導に当たっているところである。 PRについては、御指摘を踏まえ、工夫したい。
伊藤委員	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に、これまで議論をしてきた中で課題となっていた、食品ロスや賞味期限・消費期限の違い、若い学生等への啓発ということに関して、具体的な施策に結び付けており、評価できる。 しかし、家庭ごみに関しては排出量が減少している一方で、事業ごみに関しては増加している。報告1の3ページでは、事業系可燃ごみの中にプラスチック類が12%、1割強入っている。これはなぜ可燃ごみに入っているのか。 区役所での使用済小型家電の回収は、利用しやすくてよいと思う。回収ボックスの設置場所について、人の目が届かないと、様々なものが回収ボックスに入ってくる可能性があるが、どのように対応を行っているのか。 回収ボックスの周辺の目につきやすい箇所に、「家庭系紙ごみの出し方マニュアル」などを掲示すれば、PRにもつながるのではないかな。このマニュアルについては、種類ごとの排出方法の具体的な提示があり、絵等で視覚的にも分かりやすく、お年寄りなども理解しやすいと思う。 「家庭系紙ごみの出し方マニュアル」は、具体的に生活者の目線に立って作られているので、大変良い取組だと思っている。 牛乳パックは広島市の資源ごみの収集に出すことができないとあるが、牛乳パックは資源ごみとして出せないのか。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> 事業系可燃ごみに含まれているプラスチックについて、事業所の職員が食べた弁当がら等のプラスチックは、埋立地でカラスがつつくなどの問題があり、埋立てには向かないため、可燃ごみとして焼却している。 回収ボックスは、八つの区役所と市立大学の本部棟に設置してあるが、総合受付等の職員の目が届く箇所に置いており、不適物を持ち込ませないように配慮している。 回収ボックスの周辺に「家庭系紙ごみの出し方マニュアル」等を置いて目に付きやすいようにすることについては、チラシの設置スペース等の点を考慮しながら対応していきたい。

業務第一課指導担当課長	<ul style="list-style-type: none"> 牛乳パックについては、現在、資源ごみとして収集する対象とはしておらず、店頭回収において排出するようお願いしている。 本来、牛乳パックはリサイクルできるものではあるが、現在、リサイクルセンターが手狭な状況にあり、本市の収集が困難という状況が続いているため、マニュアルには広島市の資源ごみ収集に出すことができないものとして記載しているが、何とか資源ごみとして排出できないかと昨年よりリサイクルセンターの業者と協議を続けており、今年度中に何かしらの結論が出せたらと考えている。
亀本委員	<ul style="list-style-type: none"> 事業ごみの中で、資源化できる紙ごみについては、まだまだ削減しやすい部分であり、削減できるのではないかと思った。 当社でもいろいろな取組をしており、ごみ減量・リサイクル実行委員会の方でも啓発活動を行っているが、まだまだ徹底できていない部分がある。 下村委員がおっしゃっていたように、アピールの仕方についても当然必要だと思うが、事業者からの意見としては、リサイクル可能な紙類の出し方について、新聞類などの同じような大きさの紙であれば縛って出しやすいが、縛るということ自体が結構な手間である。また、年配の方は慣れているが、若い方は慣れていなかったりするので、新聞の簡単な縛り方について紹介するのも手だと思う。 小さな紙については、紙袋を利用して出してくださいとあるが、排出に紙袋、ビニール袋のどちらでも使えるとなると、事業所はもっと紙ごみを削減できると思う。 また、分別区分に応じて箱を作り、それを事業所に配布するなどすれば、事業所の資源化できる紙ごみの削減はもっと進むのではないかと思う。
業務第一課指導担当課長	<ul style="list-style-type: none"> 本日配布している参考資料の紙ごみの出し方マニュアルは、家庭向けのマニュアルであり、事業者に対しては、別のガイドラインを設けている。 事業所から排出されている資源化できる紙ごみについては、広島市の方からも、分別ボックスの設置等のリサイクルを推進する取組について、古紙回収業者に対し依頼をしているところである。
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> 事業所が古紙をビニール袋で排出することは難しいのか。
業務第一課指導担当課長	<ul style="list-style-type: none"> 事業所から出る紙ごみをビニール袋で排出できるかどうかについては、古紙回収業者の選別施設の状況によるが、市では把握していない。
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> 事業者の協力が得やすい方法があると思うので、是非亀本委員の御意見も参考にさせていただきたい。
牧里委員	<ul style="list-style-type: none"> 広島市では、1970年代後半、昭和50年代前半に、ごみ非常事態宣言を発するという大変な事態を乗り越え、この間行政も市民もいろいろと工夫をして、今日を迎えていると思う。 ごみの排出について、もっと市民が協力しやすい方法を考案していただきたい。例えば、毎年3月に各家庭に配布している「ごみの正しい出し方」、「家庭ゴミの収集等について」についての評価は、あまり高くないが、ごみ出しカレンダーの評価は高い。3月頃ホームページに掲載されるので、これを公衆衛生

	<p>推進協議会や町内会で編集して、各家庭に配布している。これだと、いつごみを出せばいいか一目瞭然なので、そういう方法でも、行政から市民に提供してほしいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> また、市街地から少し離れ、郊外に行くと、ごみの野焼きがまだ見られ、地域で結構な問題となっている。野焼きについては、環境問題等もあると思うが、現在、野焼きをすることが違反には当たらないのか。また、違反ということならば、どのように対応しているのかを教えてください。
業務第一課指導担当課長	<ul style="list-style-type: none"> 野焼きについては、慣習になっているような一部のものを除き、廃棄物の処理及び清掃に関する法律第16条の2で禁止されている。 野焼きの苦情があった場合は、直ちに現地に向かい、野焼きの実施者の特定を行い、所轄の警察署及び消防署と協力して指導を行っている。 農作業に係るものについては例外があるが、野焼きをされている方の中には、昔からの習慣でという方も結構おられる。そういった方々には、きちんと家庭ごみとして排出するよう指導をしている。
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> 農地の雑草は燃やしてもいいのか。自宅の庭の雑草はどうか。
業務第一課指導担当課長	<ul style="list-style-type: none"> 農業を営む方が害虫対策等の名目で草木を焼くことは可能であるが、自宅の庭の雑草を焼くことは認められていない。
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> その辺りが分かりにくいかもしれない。
業務第一課指導担当課長	<ul style="list-style-type: none"> 分かりにくい部分については、しっかりと周知していきたい。
牧里委員	<ul style="list-style-type: none"> 地域ごとのごみ出しカレンダーは作れないのか。
業務第一課指導担当課長	<ul style="list-style-type: none"> ごみ出しカレンダーについては、市のホームページから作成できるようになっている。公衆衛生推進協議会におかれては、地域の通常のごみ収集日に加え、町内会で行われている集団回収のデータ等を取り込み、各町内会で配布して活用されていると聞いている。 町内会の集団回収のデータ等を取り込んだ地域ごとのごみ出しカレンダーについては、市で一括して印刷することが難しいため、これまでどおり、ホームページの活用をお願いすることになるが、ごみ出しカレンダー等については、皆様の御意見を伺いながら、改良していきたい。
牧里委員	<ul style="list-style-type: none"> 「家庭ごみの正しい出し方」等については、改良の余地はないのではないかとと思う。
業務第一課指導担当課長	<ul style="list-style-type: none"> 抜本的な直しは難しいが、毎年いろいろと御意見を頂きながら徐々に修正している。 使用済小型家電の回収について等、新規の事項については、来年度の「家庭ごみの正しい出し方」に反映させていきたい。
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な御要望があれば、直接事務局に御相談いただき、反映していただけるようなかたちにすればいいと思う。
天玉委員	<ul style="list-style-type: none"> 報告1の2ページ、3ページで可燃ごみの組成分析の結果が示されているが、紙くずや生ごみで全体の7割や8割を占めている。これらのごみは、更に詳しく分類をされているが、木くずについても、よく見ると11%や15%といっ

	<p>た大きな数字になっている。これはこういった形で出るごみなのか。木くずもリサイクルされていると思っていたが、焼却に回っているのか。</p>
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> 木くずについては、割りばしや鉛筆、つまようじ、せん定枝等が入っている。家庭から出るものなので、なかなかリサイクルに回りにくいと考えている。
天玉委員	<ul style="list-style-type: none"> 木の比重が大きいということはあると思うが、可燃ごみ全体の1割ということになると、全体の重量からすると大きいと思う。
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> 木くずという用語は適切なのか。産業廃棄物には木くずの定義があるが、この資料の中では、慣用的に使っているのだと思う。排出の実態と少しイメージが合わないのであれば、それに見合った表現について検討していただきたい。
川本副会長	<ul style="list-style-type: none"> 報告2の6ページ、17番の「啓発用品等の貸出・提供」で、事業所等の自主的な環境学習の取組に対してパネルや物品等の貸出しをされており、平成27年度が3件、平成28年度上半期の実績が1件ということだが、PR等の状況はどうなのか。状況によっては、広報等の協力をしたいと思う。
業務第一課指導担当課長	<ul style="list-style-type: none"> 御指摘のとおり、平成27年度及び平成28年度上半期は貸出件数が低い状況にある。当事業は、パネルやのぼりを貸し出して、事業者や地域のイベント等で使っていただくことを目的としている。 今年度以降、新たに食品ロスの削減に向けたパネルの削減やロゴマーク等の作成も検討しているため、あわせてPRもしっかりと行っていきたいと考えている。
滝島委員	<ul style="list-style-type: none"> 政令指定都市の中では1人1日当たりのごみ排出量が最少であり、非常に多岐にわたる活動を続けられているということで、頭が下がるような思いで聞いていた。 根本的な質問だが、広島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画に目標値はあるのか。また、目標値と照らし合わせた場合、現状はどのようなペースだと考えているのか。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> 広島市は、平成27年3月に、平成27年度から平成36年度までの10年を計画期間とする広島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画を策定した。 広島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画では、最終目標年度である平成36年度までに、総排出量を33万7,000トン、1人1日当たりのごみ排出量を785グラム、焼却量を28万5,000トン、埋立量を4万トンに削減するという目標値を掲げている。最終目標年度の目標値の達成に向けて、努力が必要であると考えている。
滝島委員	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな事業をされているが、費用対効果の高いものというのはいったいどのようなものがあるのか。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> ごみの減量には、市民一人一人に御協力いただくことが一番であることから、市民への普及啓発が重要であると考えている。
滝島委員	<ul style="list-style-type: none"> 昨年の審議会ですごく話題になったと思うが、純粋な気持ちを持った小学生などに、焼却施設などごみ処理の現状を見てもらうといったことをもっと行えば効果が出るのではないかとと思う。
施設課長	<ul style="list-style-type: none"> 報告1の5ページの14番に記載しているとおり、ごみ処理施設の見学の受

	<p>入れを継続して行っており、平成27年度、平成28年度ともに多くの方に来ていただいている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 多くの小学校で、4年生のカリキュラムにある社会見学の対象として、新しい中工場、安佐南工場を中心に、ごみ焼却施設が利用されており、施設見学と併せ、ごみの出し方等の啓発活動も行っている。 今後も続けていきたいと考えている。
環境局長	<ul style="list-style-type: none"> 先ほど滝島委員から広島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の目標値のことに話があったが、今後の資料作りにおいては、報告1の資料に目標値を記入して、現状と目標を併せて御覧いただけるようにしたい。
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> 目標値を実績に併記することになると、事業ごみの増加が目立ってくると思うので、事業者に向けたPR活動がより必要になってくるのではないかなと思う。 事業活動が活発になるということは、ある意味良いことでもあるし、観光客の増加等も背景としてあるのではないかなと思う。そういったことも考えて、事業者と協力関係を結ぶことが必要なのではないかなと思う。 廃棄物処理事業審議会には、事業者関係の委員もおられるので、委員にも御協力いただいて、施策を進めていただきたい。
仁井委員	<ul style="list-style-type: none"> 広島市に転入される方について、広島市のごみの分別に対する理解をどのようにして得るかということが課題だと考えている。 また、市民のうち、ホームページ等を見て、ごみの分別を細かいところまで積極的にされる方というのは非常に少ないのではないかなと思うので、それらをどのようなかたちで周知していくかというところは課題ではないかなと思う。 数値上には表れていないが、自治体の町内会の単位で考えると、町内会に入らない世帯や、町内会を構成できない地域等がある。町内会に入っている方は、ごみステーションがあるが、町内会に入っていない方は、ごみステーションを利用することについて、町内会に入っている方からの反発があったりする。そういった場合に、銀行やコンビニ等、事業所のごみ箱に家庭ごみを入れるという状況が生まれることがある。 広島市には外国人の観光客や滞在者が多いが、広島市のごみの分別について御理解いただけているのだろうか。事業所では徹底できるかもしれないが、外国人の方々に対して、どのような対応を取っていくかというのも一つの課題だと思う。
業務第一課指導担当課長	<ul style="list-style-type: none"> 転入者の方については、転入届を区役所の市民課に提出されるときに、「ひろしまエイト」、「家庭ごみの正しい出し方」、そして広島市特有の可燃ごみの排出袋である紙袋をお渡しするとともに、正しいごみの排出方法について周知をしている。 特に、関東圏や関西圏にお住まいの方が広島に転入される場合、紙袋で出してください、8種類分別で出してくださいということに驚かれることが多いので、しっかりと転入される方に支援をしていきたいと考えている。 外国人の方については、5か国語ではあるが、外国語で記載された「家庭ごみの正しい出し方」を配布するようにしている。

<p>亀本委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 木くずの中で、長芋等が入っているおがくずは、結構量があり、重さもある。当社では、以前はおがくずをごみとして排出しており、重さがあるので、処理コストが掛かるという問題があったのだが、酪農事業者から牛舎の敷料として利用したいので頂けないかという話があり、持って行ってもらうようになった。当社としては、ごみの処理代が減り、農家さんは喜ぶという、良いサイクルの事例があった。 ・ 他にも、大きな木箱に入ったリンゴを仕入れた時に、空いた木箱の処理に費用が掛かっていたが、それについても、近所の方に引き取っていただくことで、処理コストが下がったということがあった。 ・ こういったお互いメリットがあるような取組を行政に仲介していただけると、話がスムーズにいき、ごみの排出量が減らせるのではないかなと思う。
<p>業務第一課指導担当課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在、事業ごみが年々増えているという課題があり、その一方で、いろんな取組を行っている事業者もおられるということで、そういった事例を集めて、勉強会の開催を企画したいと考えている。 ・ 同じような業種で類似の取組ができるのではないかなというところから始めて、そこから、行政が協力できる部分があれば協力していきたいと考えている。
<p>今岡会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ そういった情報については、参考にされる方が多いと思うので、是非事業者提供していただきたい。
<p>伊藤委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在、大学内で、ホームページ上の掲示板で不用品の情報提供をして、欲しい人に取りにきてもらうという取組を行っている。こういった形で取組を行えばリユースがもっと広がるかもしれないと思ったので、参考までにお伝えする。 ・ 報告2の6ページ、17番について、啓発物品をこれから作成してくださるということで、大変期待している。私は家庭科教育を行っているが、家庭科の場合は、環境教育というのが一つの柱として位置付けられている。その際に、こういうビデオがあると授業の中で活用できてうれしいと思う。 ・ ビデオは、ただごみを分別しましょうというだけではなくて、なぜごみを分別しなければならないのかということ、子供の頃から考えられるような構成にしていきたい。 ・ 私たちのちょっとした行動が地球温暖化や環境破壊につながるということ、私たちは環境問題の被害者であり加害者でもあるということ、小学生、中学生でも認識できるような分かりやすいビデオを作成していただければありがたい。
<p>川本副会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下村委員が先ほどおっしゃっていたテレビでのPRについて、報告2の資料を読むと、いろいろな広報番組に既に出演されているようなので、廃棄物に関連する放送がある場合は、事前に委員にお知らせいただきたいと思う。 ・ イベントやテレビ放送等の今後の予定が決定した段階である程度事前に教えていただければ、参加できるものについては参加していきたいと思うので、情報の共有をお願いします。 ・ 審議会で実績等を後から検証することも必要だが、そういった事前情報によって現状を共有することで、施策について、足りない部分の指摘やコメント等

	ができると思う。
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> • そういった情報共有をするネットワークを市の方で作っていただくことで、いろいろな情報が提供できるのではないかと思うので、是非お願いしたい。
下村委員	<ul style="list-style-type: none"> • ごみの問題に関してもそうなのだが、町内会組織等の加入率が悪いというのが今問題となっている。地震等の防災の面でも、隣に誰が住んでいるか、逃げる時はどうするかといった話合いができるような環境づくりができるよう、町内会や商店街の加入促進条例を是非作っていただきたい。
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> • それについては、御意見としてお聞きしておくということで、他にないようであれば、本日の会議を終了する。長時間にわたる御審議、感謝する。